

ヴェリタス学習会通信 104

予定表カレンダー →



令和7年11月の予定

- ・月曜日 11月3・10・17・24日 大安公民館1階研修室 18:30～21:00
- ・火曜日 11月4・11・18・25日 員弁老人福祉センター1階会議室3 18:00～20:30
- ・水曜日 11月5・12・19・26日 ヴェリタス事務局 18:30～21:00
- ・木曜日 11月6・20・27日 北勢市民会館1階リハーサル室 18:30～21:00
- ・金曜日 11月14日 ヴェリタス事務局 18:30～21:00

藤原文化センターは休止中です。水曜日はヴェリタス事務局で開会しています。

11月13日(木)は、事情によりお休みです。代わりに翌14日(金)にヴェリタス事務局で開会します。

ヴェリタス事務局の所在地は、511-0261 いなべ市大安町丹生川上 650-1 です。
丹生川上集会所(旧丹生川上児童館・教育集会所)内です。

警報が出ている場合は休会にします。いつもその会場に来ている方にはLINEなどで

お知らせいたしますが、不安な場合はお問い合わせください。



連絡先

ヴェリタス学習会担当まつみやの携帯電話番号：090-7696-0189 (+メッセージも可能)

メールアドレス：npoveritas@gmail.com

LINE ID：m9s0bay (4文字目は数字のゼロです)

Facebookの「松宮 卓」に友達申請していただければMessengerが使えます。

メールやLINE登録をしていただいた方には、それを利用して休会連絡を行います。手数料削減協力のため、できる限りご登録ください。LINEを利用して、宿題等の画像を送ってくる子もいます。自分でできるところまでやって送ってもらうと、効果的な返信ができます。



Zoomなどの会議ツールを利用しませんか



利用が広がっているZoomクラウドミーティングやSkype, Facetime, Google Meetなどを利用して学習しませんか。興味のある方は、ご相談ください。
(画像は生成したもので、実在の人物ではありません)

以前につくった英語の名詞と名詞系語句についての中学生用のファイルを上げました。右のQRコードか下記のURLからご覧になれます。



<http://www3.cty-net.ne.jp/~veritas/info25/noun01.pdf>

日本最古の歌集『万葉集』

国語と歴史では、中学校の定期試験でも出題される『^{まんようしゅう}万葉集』。光村図書の中学校の教科書『国語3』によると「現存する日本最古の歌集。二十巻で約四千五百首。奈良時代末期に成立」という内容が書かれています。

日本には文字がなかったので、漢字を使って歌の音を表しています。^{まんようがな}万葉仮名と言うのでしたね。

初期の代表歌人額田王



初期の歌人に^{ぬかたのおおきみ}額田王がいます。女性です。額田王がどんな人物か詳しくはわからないと万葉集には書かれています。しかし日本書紀などによると、^{かがみのおおきみ}鏡王の娘で、最初はおおあまのおうじ（のちの^{てんむ}天武天皇）の奥さんとなつて^{とおちのひめみこ}十市皇女を生みました。その後、なかのおおえのおうじ（^{てんじ}天智天皇）のもとに呼ばれ、^{じんしん}壬申の乱後、大和（奈良）に戻り天武や持統朝に仕えたようです。（鏡王は^{せんか}宣化天皇の子孫で、^{いな}威奈という氏姓を名乗っていたので^{いなべ}猪名部氏の出身地候補の兵庫県尼崎市東北部の猪名の地に住んでいたという説も）

万葉集には、長歌^{しゆ}三首、短歌は十首記載されていますが、^{ちようふく}重複もあるので実質的には十二首かと考えられます。（首は歌の数の単位）

万葉集にある彼女の歌と大海人皇子の歌から、天智天皇（大海人皇子の兄）との三角関係が伺われるため、小説やドラマで、そのように描かれることも多くあります。しかし、歴史書にはそのような記述はなく（あっても書かないでしょう）、二人の歌も^{たわむ}戯れて作ったものだと解釈する人もいます。

万葉仮名と仮名文字

金野乃（アキノノノ） 美草苺葺（ミクサカリフキ） 星杼禮里之（ヤドレリシ）

兎道乃宮子能（ウヂノミヤコノ） 借五百磯所念（カリホシオモホユ）（万葉集一卷七番目の額田王の歌）

秋の野の み草刈り葺（ふ）き 宿れりし 宇治の都の 仮廬（ほ）し思
ほゆ

秋の野からススキやカヤを刈り取って、それで屋根をふき、宿とした宇治の行宮の仮小屋のことが思い出されます。

一番上の段が万葉仮名です。「金」を「秋」と読ませています。中国の五行説で、木＝春、火＝夏、金＝秋、水＝冬としているからです。「野」や「美草苺葺」などはそのまま漢字の意味が読みにも出ていますが、「星杼禮里之」などは漢字の音をそのまま利用しているだけで、漢字の意味から「宿った」という意味は出ていません。このように漢字の^{おん}音や^{くん}訓の当て字、意味と訓読みを同時に満たしている文字など、万葉集に使われている漢字のことをすべて万葉仮名と呼んでいます。

当て字の一部を崩して、平安時代にカタカナとひらがなという^{へん}仮名文字が成立します。「安」を崩して「あ」、「世」から「せ」「セ」、「伊」から「イ」（偏だけ利用）というように簡略化しました。

二段目は、書き下し文のように、意味を込めた漢字とひらがなに書き換えてみました。

三段目は現代語訳例です。

それまでの和歌は、その時の情景や感情をうたっているのが普通ですが、この歌は昔のことを回想してうたっています。これは、過去のことを思い出してうたった最初の歌なのではないかと言われています。

どうして現代語訳のような意味になるのか、またどういう状況で詠まれたのかは書けませんでした。知りたい方は質問してください。

